

学報



60

Aichi University of the Arts
60th Anniversary

巻頭特集

60周年記念特別企画「未来を語る」

No. 73

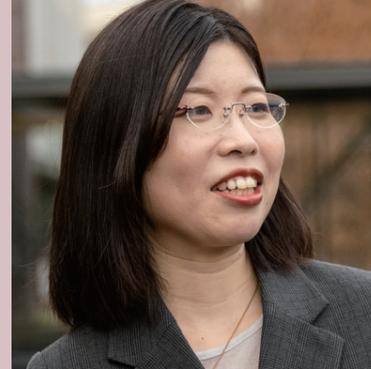




美術学部美術科
油画専攻 准教授
大崎 宣之



事務部門長
木下 圭一郎



音楽学部音楽科
作曲専攻音楽学コース 講師
七條 めぐみ



美術学部デザイン・工芸科
メディア映像専攻 教授
森 真弓



美術学部デザイン・工芸科
メディア映像専攻 教授
有持 旭



美術学部デザイン・工芸科
デザイン専攻 准教授
春田 登紀雄



VISION 01
「教育改革と人材育成」

VISION 02
「多様なキャリアデザインの支援」

VISION 03
「地域連携の推進」

VISION 04
「ブランドイメージの確立」



音楽学部音楽科
声楽専攻 准教授
森 寿美

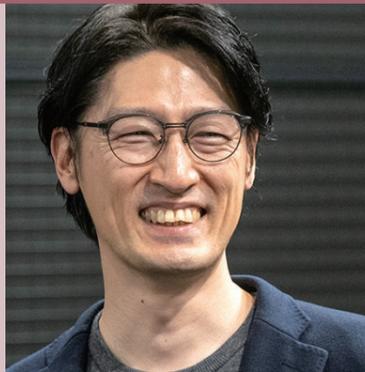
未来を語る



音楽学部音楽科
作曲専攻作曲コース 准教授
安野 太郎



事務部門学務部
芸術情報・広報課 課長
山内 恭輔



2026年4月1日、愛知県立芸術大学は、開学60周年を迎えます。
昭和、平成、令和と時代が移りゆく中、本学は社会のニーズに応えるため、さまざまな変革に取り組んできました。
そして今、少子化やAI時代の到来により、これまで以上のスピード感を持ち、
大胆な変革を遂行することが求められるようになってきました。
そこで今回は、次の世代を見据え、目指すべき大学の姿とはどうあるべきか。
4つのテーマのもとに、教職員が意見を交わし合う場を企画しました。



美術学部美術科
彫刻専攻 教授
森北 伸

現在、本学における大学改革は、「第四期中期計画（2025年4月1日～2031年3月31日）」のもとに進められています。中期計画とは、これから本学が取り組んでいくべき改革のあり方を示す指針であり、大学改革の道しるべとなるものです。今回は、この第四期中期計画の中から、「社会における芸術大学の役割」という視点から4つのテーマをピックアップ。教職員がそれぞれの立場から意見を出し合い、大学改革への思いを共有する場となりました。

VISION 01 教育改革と人材育成
芸術大学にふさわしい特色ある授業科目の開発に向けた、目指すべき教育改革の姿、そして思い描く人材育成像について――

VISION 02 多様なキャリアデザインの支援
学生の志望する進路が多様化する中、キャリアデザイン支援とはどうあるべきか。今後、取り組むべきことは――

VISION 03 地域連携の推進
『「芸術の力」で社会や世界とつながる』を目標に本学が果たすべき社会連携のあり方とは。現状と今後の展望について――

VISION 04 ブランドイメージの確立
本学ならではの魅力を再構築し、いかに発信していくのか。本学のブランド力向上のために、さらに取り組むべきことは――

本学には、美術学部にて7専攻、音楽学部にて3専攻5コースがあり、異なる専門をもつ教員・学生が交わることで、多様なアイデアが生まれる環境が育まれています。60周年を迎えた今、本学はこれまでの歩みを踏まえつつ、未来に向けた新たな変革に教職員一同で挑んでいきます。その思いが込められた討議の一部を、ぜひご覧ください。



VISION 03

地域連携の推進

音楽学部音楽科
声楽専攻 准教授
森 寿美

美術学部デザイン・工芸科
メディア映像専攻 教授
有持 旭

事務部門学務部
芸術情報・広報課 課長
山内 恭輔

山内 病院や福祉施設等を対象として訪問支援を行う「アウトリーチプロジェクト」、県の障害者芸術活動支援事業である「あいちアール・ブリュット」が社会でも高く評価されています。今後、取り組んでみたいと考えていることはありませんか。

有持 私は、本学が持っている魅力を活かしたプロジェクトがもっとあっていいと考えています。例えば、吉村順三・奥村昭雄設計の建築や緑豊かな森は、本学の宝です。ここに来なければ味わえない心地よさ、大学のありのままの姿を知ってもらうためのプロジェクトを大学として進めていくべきではないでしょうか。

森 私が今、課題だと感じていることは、大学として少子化問題とどう向き合っていくか。そのヒントを得たのが2024年の「こども愛知芸大」です。音楽学部、美術学部の企画した体験型講座に子どもたちが楽しそうに取り組んでいました。こうした活動を打ち出していくことで、音楽や芸術への関心が高まるに違いありません。

有持 私も親として興味のある企画でした。子どもが気軽に参加できるイベントが増えると親として嬉しいです。森 参加した子どもたちは、この体験を忘れないと思うんです。できれば、芸術講座の一つとして、子ども体験講座を開催してはいかがでしょうか。

有持 芸術講座で取り上げてみることに私も賛成です。子どもにとって大学がもっと身近な存在になるといいと思います。

山内 先生方のお話を聞き、芸術大学に求められているのは、芸術をもっと身近に楽しめる環境づくりを進めることだと改めて感じました。



本原稿は、会談の一部を抜粋し編集した内容です。詳しくは「60周年記念サイト」をご覧ください。



VISION 01

教育改革と人材育成

音楽学部音楽科
作曲専攻音楽学コース 講師
七條 めぐみ

美術学部デザイン・工芸科
メディア映像専攻 教授
森 真弓

事務部門長
木下 圭一郎

木下 第四期中期計画では、「教育改革」を柱の一つと位置付けています。今後、どのように取り組んでいくのか、こういう改革を進めていきたいという考えについて教えてください。

森 まず教育改革は、学生の価値観を大切にすべきです。そもそもカリキュラムは、教員たちが学んできた過去の経験をもとに形成されています。それが今の学生にフィットしない瞬間が必ずあります。それに気づいた時、どれだけしなやかに変更できるか。例えば「ゲーム」という言葉の捉え方も学生たちと私たちでは違います。それを理解し、見誤らないように拾っていくか、学生たちが発信する新しいものに対して正しく指導できません。今後、最先端な社会に挑んでいく学生たちをどうアシストできるのか、そこにどう柔軟に対応していくのか、そこを目指していかなければいけないと考えています。

七條 「柔軟な対応」は私も重要だと思っています。音楽学コースでは、伝統的なテーマとして西洋音楽史の作品研究があります。一方で近年の学生は、ゲームやテレビ番組の音楽、地域で実践される芸能などをテーマに選ぶ傾向があります。つまり、これまで「音楽学」の研究対象と見なされなかったものを研究したい学生が増えてきたということです。私たちは、それを絶対に否定しません。その対象をどうすれば学問的に捉えることができるのか、「好きだから」「興味があるから」では終わらせない、学問的、批判的に思考する力を、どう育てていくのかが私たちに問われるのだと思っています。

本原稿は、会談の一部を抜粋し編集した内容です。詳しくは「60周年記念サイト」をご覧ください。



VISION 04

ブランドイメージの確立

事務部門学務部
芸術情報・広報課 課長
山内 恭輔

美術学部デザイン・工芸科
デザイン専攻 准教授
春田 登紀雄

音楽学部音楽科
作曲専攻作曲コース 准教授
安野 太郎

美術学部美術科
彫刻専攻 教授
森北 伸

春田 本学には、美術学部に7専攻、音楽学部に3専攻5コースがあり、それぞれに強い個性を持っています。そのため、ときには意見を一つの方向へ集約することが難しい場面もありますが、反面、そうした多様性こそが、それぞれのユニークさを際立たせているとも言えます。だからこそ、教員や職員一人ひとりが広報マインドを持ち、互いの立場や考え方を超えて、愛知芸大の魅力を発信していくことが必要なのではないでしょうか。



本原稿は、会談の一部を抜粋し編集した内容です。詳しくは「60周年記念サイト」をご覧ください。



VISION 02

多様なキャリアデザインの支援

美術学部デザイン・工芸科
デザイン専攻 准教授
春田 登紀雄

美術学部美術科
油画専攻 准教授
大崎 宣之

事務部門長
木下 圭一郎

木下 キャリアデザイン支援として、これから取り組んでいきたいことについてお話しください。

春田 2026年度より「キャリア教育」が全学を対象とした教養科目として始動します。その狙いは、不確実な時代を生き抜く力として、芸術で培った学びを社会で活かすことにあります。本学の強みである創造性教育によって磨かれた力を、「よりよく生きる力」へとつなげていきます。

私たちが支援するのは、単に就職や作家になるための準備ではありません。学生一人ひとりが、自らの創造性を社会の中で発揮し続けるための土台を築くことです。その実現に向けて、キャリア教育の充実に加え、個別支援の強化、そして学生の受け皿となる「キャリアデザインセンター」の組織づくりを着実に進めていきます。

大崎 キャリア支援に対する固定観念を変えてゆく、更新していくことが第一歩だと考えています。「こうなるためには、こうしなければいけない」という考えは、すでに崩壊しています。過去の常識にとらわれず、学生それぞれが自分らしいアプローチで、どうこの世界と向き合うのか。そうした多様性に柔軟に応える支援を推進していくべきだと思っています。

そもそも本学に求められているのは、創造的な思考、ビジョンを持つ人間を育て続けていくことです。大学で培った創造性を活かし、どういう生き方がしたいのか、どのように社会と関わっていくのか。学生の決意を私なりにサポートしていきたいと思っています。

木下 キャリア支援が本学の強みとなるよう、今後もしっかり取り組みを進めましょう。

本原稿は、会談の一部を抜粋し編集した内容です。詳しくは「60周年記念サイト」をご覧ください。



02

ナゴヤイノベーターズガレッジ・クラシック・チャレンジ

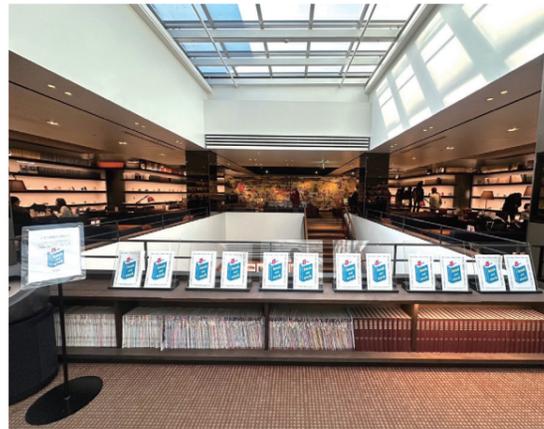


中部経済連合会と名古屋市がタッグを組んで設立されたナゴヤイノベーターズガレッジ様を中心に、認定NPO法人 ムジーク エンゲル様、宗次ホール様、そして本学が連携し、ヤマハ株式会社様の協賛を得て、「クラシックチャレンジ賞2025」が開催されました。これは、「愛知県立芸術大学から世界に羽ばたく演奏家を育てるプロジェクト」として立ち上げられたもので、9月の集中講義「アート・マネジメント」の授業と連動してオーディションが行われ、参加した12チームから、5チームが選ばれて、10月11日(土)にナディアパーク(栄)2階アトリウムで開催された本選に出場し、熱のこもった演奏を披露、聴衆を魅了しました。3名の審査員の他、聴衆による審査も加えて、3チームが入賞し、賞金を獲得しました。中日新聞やNHK東海の番組「まるっと」など各種メディアにも取り上げられ大きな注目を集めました。

安原 雅之(音楽学部 音楽科 作曲専攻 音楽学コース 教授)

03

book and work 陶磁教育・作品交流展2025



『book and work 陶磁教育・作品交流展2025』は、日本の芸術大学の陶磁分野で学ぶ学生と教員による創作を通じた交流を目的に、2025年2月11日～2月17日の間、一般財団法人神戸財団と愛知県立芸術大学が主催、武蔵野美術大学の協力のもと、代官山・蔦屋書店で開催されました。参加者となる学生は学部生、大学院生、研究生まで幅広く、また、教員は専任、非常勤を問わず、総勢8大学133名が、好きな「本」一冊からインスパイアされた陶磁作品を思い思いに創作しました。各自選択した書籍とともに、133点の作品が蔦屋書店2号館2階の本棚に一堂に展示されました。今回の企画は、連日約一万人が訪れる代官山の展示スペースで、「本」をきっかけとして、幅広い来訪者が芸術大学の陶磁教育の現在とその成果である陶磁作品を展示しました。これまで陶磁や芸術教育に関心を持つ機会の少なかった人々にも、自然と興味をもって頂くことを目指しました。

長井 千春(美術学部 美術科 デザイン・工芸科 陶磁専攻 教授)

04

「長篠長久手合戦図屏風」六曲一双 復元模写



文化財保存修復研究職員による制作

2020年4月より開始された愛知県立芸術大学模写制作事業において、徳川美術館蔵「長篠長久手合戦図屏風」六曲一双(18～19世紀制作)の復元模写制作が、2025年春ついに完了しました。完成作品は教育資料として大学内の芸術資料館に收藏され、同年4月末から5月上旬にかけて、通常は非公開の模写制作室内で一般公開されました。また2021年からは長久手市より「長久手合戦図屏風」半双の復元模写制作を依頼されており、こちらの完成作品は2026年4月開館予定の長久手古戦場記念館に常設展示されます。

保存の観点から頻りに公開する事が難しい原本に代わり、模写作品は間近に図像や絵の具の美しさを観覧できます。特に長久手合戦図に関しては、本学が所在する地域の歴史画であり、そこに描かれている風景は、現在の古戦場公園周辺と重なるように配置されています。

01

一般社団法人VAUAの設立

「芸術の力」で社会とつながるための新組織

VAUA(Value of Aichi University of the Arts)は、愛知県立芸術大学の「芸術の力」と社会や世界とつなげる活動を推進する組織です。本学を支援して下さる企業などからの寄付金を原資に一般社団法人として設立しました。2026年度4月から本格的に始動します。法人化以降、本学には、社会連携センター(旧:芸術創造センター)が組織され、社会からのあらゆる要請に応えてきました。これまでの社会連携センターでの取組みは、外部評価において高い評価を得ていますが、今回、VAUAを併設することで実施基盤を強化し、社会連携における新しい可能性に挑戦していくことになります。



Value of Aichi University of the Arts

VAUAの目的と5つのリーチ

VAUA設立の目的は、愛知県立芸術大学が持つ「芸術の力」で人間に新たな力を生み出すこと、作品や音が生み出す感動で社会や世界を豊かにすることです。

VAUAでの取組は、5つのリーチ(発信・育成・クリエイティブ・ケア×アート・温故知新)を軸に進めていきます。

具体的には、展覧会や演奏会、アート作品設置や演奏者を社会に提供していくこと(発信)。アーティストや音楽家になるためのキャリアビジョンを描くための取組みや、海外へ芸術家を派遣するプロジェクト、子どもたちへ芸術の楽しさを教えていく講座(育成)。企業からのデザイン受注や商品開発への発想提供、企業でイノベーションを起こすために必要だとされているアート思考の普及(クリエイティブ)。病院や福祉施設などに芸術的支援を広げていく活動(ケア×アート)。美術品・文化財を次世代に残していく事業(温故知新)など…

VAUAから発信する様々なアイデアで「芸術の力」と社会や世界をつないでいきます。

こうした取組みは、人間の心に創造性や共感力を育み、現代社会が抱える課題解決にも寄与していくと信じています。

白河 宗利(愛知県立芸術大学 学長)



ARTFUL CAMPUS



名古屋工業大学と本学の連携による「ARTFUL CAMPUS」の一環として、特別共創講座を実施しました。本講座は、名工大が専門とする工学と本学管打楽器コースが専門とする音楽を融合させた「音を学ぶ・工(たくみ)を楽しむ」という理念によって企画されたものです。まず、6月から12月にかけて名工大を会場に、計3回の楽器講座を開催しました。講座では管楽器と打楽器の構造や音響特性および表現法を主題に据えて、両学教員が相互の専門性を持ち寄り協働することで、独創的な内容が展開されました。そして、12月には本学演奏堂にてウインドオーケストラの公開授業を開講しました。授業の中では、名工大生が

指揮の指導を受けたり、両大学の学生による

即興演奏が行われたりと、自由で活発な交流が見られました。それぞれの講座で専門性の垣根を越えた活動が実現し、今後の複合的な研究・教育に繋がる一定の知見を得られたことは、たいへん意義深い成果であったと考えております。

ARTFUL CAMPUS クリエイティブディレクター：深町 浩司 (音楽学部 音楽科 器楽専攻 管打楽器コース 教授)



国際交流事業2025・チェヒョン展



本学の協定校であるソウル市立大学彫刻学科の卒業生、チェ・ヒョン氏を招聘し、彫刻専攻オープンスタジオ期間中に彫刻交流棟プロジェクトスペースにて作品展示を行いました。展示では、未知なる領域であるミッシングリンクをテーマに、医療カルテや飲み菓をモチーフとした作品5点が紹介されました。学生たちはホログラムなどの動きや光を取り入れた氏の立体作品に触れ、刺激を受けた様子でした。滞在期間中には資料館地下演習室にて、氏の作品および同大学を紹介するトークが実施され、その後、展示会場でレセプションパーティーが開催されました。中国・韓国からの留学生を含む専攻を超えた学生が参加し、友好的な雰囲気のもと、学生間の交流が生まれる機会となりました。

村尾 里奈 (美術学部 美術科 彫刻専攻 准教授)



Festival Puente 2025



2025年11月10日から15日にかけて、南米チリで音楽フェスティバル「Festival Puente 2025」が開催されました。本フェスティバルは、港町バルパライソを拠点とするオーケストラMarga Margaが主催し、弦楽合奏を中心に据えた国際的な音楽祭です。本学客員教授のAndrián Pertout氏が企画に深く関わっており、日本からは私と本学の成本理香教授が参加しました。チリをはじめ複数地域から作曲家が集い、作品発表と交流が行われました。私は《蝸牛譚 III》、成本教授は《The Stones V(b)》をそれぞれ新作初演しました。《蝸牛譚 III》は聴覚の仕組みを、《The Stones V(b)》は囲碁の対戦構造を、それぞれ音楽構造へ取り込んだ作品です。異なる文化的背景

をもつ演奏家や聴衆の前で作品が上演され、議論を伴いながら受容された経験は、現地オーケストラとの協働による制作・上演とあわせ、今後の創作研究および教育実践にとって示唆に富むものであります。

安野 太郎 (音楽学部 音楽科 作曲専攻 作曲コース 准教授)

奈良美智客員教授レクチャー



2024年度に彫刻専攻の客員教授として着任した奈良美智氏は、2025年度には油画専攻の客員教授にも就任しました。前期終了時には、油画専攻と彫刻専攻合同でレクチャーを開催し、さらに個々の専攻での講評会も行われました。自身の制作過程や世界各地を巡る旅、滞在先での人々との交流など、多彩な経験が作品にどのように結びついているのかを語り、学生たちに刺激を与えました。奈良氏は1987年に愛知芸大大学院を修了し、2011年には本学のアーティスト・イン・レジデンスで半年間滞在制作を行うなど、長年にわたり本学と深い関係を築いています。その交流を通じて、多くの学生が影響を受けて、成長していく姿は、大学機関としての意義を改めて示すものとなりました。

森北 伸 (美術学部 美術科 彫刻専攻 教授)



アーティスト・イン・レジデンス



2025年度のアーティスト・イン・レジデンスでは、美術分野から1名、音楽分野から1名のアーティストを招聘しました。まず美術分野では、アメリカのジェームズ・マディソン大学准教授であるディンフ・デ・ウィルド氏を迎え、ワークショップおよび展覧会を開催しました。ワークショップには高校生、大学生、社会人、本学教員が参加し、和綴じの技法を用いて独自の本を制作するなかで、参加者同士の交流も深まりました。

音楽分野では、韓国芸術総合学校の Jerry Chae 教授を招聘し、クラリネットの公開マスタークラスを実施しました。公開マスタークラスには海外から参加した弦楽器専攻の学生も加わり、レッスンは英語で行われました。参加者にとって、海外の大学で行われるレッスンの雰囲気を経験できる有意義な機会となりました。

アントレプレナーシップ教育



サマースクール2025の様子

芸術大学における創造性教育を基盤として、内発的動機に着目したアントレプレナーシップ教育のプログラム開発と実践に取り組みました。サマースクール2025およびTongaliスクールの運営を通じ、分野や立場の異なる学生が交わり、社会との関係の中で自身の関心や問いを価値へとつなげる学びの場を提供しました。また、高校や中学校での授業支援を行い、キャリア教育や探究的な学びの初期段階における創造性の育成を担いました。さらに、来年度の裾野拡大に向け、文部科学省主催イベントにおいて全国の教育関係者へ実践事例を紹介するとともに、愛知県教育委員会のアントレプレナーシップ教育アドバイザーとして、県立高校での実装に向けたファシリテーター育成を推進しています。

春田 登紀雄 (美術学部 デザイン・工芸科 デザイン専攻 准教授)

退任教員紹介



美術学部 美術科
芸術学専攻
小西 信之
こにし のぶゆき

私は愛知県立芸術大学に30年間お世話になりました。その間様々なことがあり、沢山のひとと出会いました。先日退任記念講義(最終講義)をさせていただき、かつての学生たちが遠方からも駆けつけてくれ、時間が急激に巻き戻され、当時の映像が次々と再生され、感無量でした。若い学生たちと気軽に触れ合っていた30代から、いつのまにか歳をとり、その距離も気がつけばずいぶん広がりました。現代アートを専門とする私にはちょうど潮時と思っています。それでも、相変わらず現代にこだわりつつ、現代アートの研

究も続けていきたいと思っています。長い間お世話になった愛知県立芸術大学には感謝しかありません。この大学がこれからも緑に囲まれた、芸術の学舎として光彩を放ち続けることを願っています。



『アヴァンギャルドのオリジナリティ—モダニズムの神話』
ロザリンド・クラウス
谷川渾・小西信之 訳
(月曜社)2021年



美術学部 デザイン・工芸科
デザイン専攻
水津 功
すいづいさお

愛知芸は大変居心地のいい処で、ついうっかり30年も留まってしまいました。ここは自由を模索する破壊と創造の実験場であり、素晴らしい若者が川の流れるようにやって来ては去っていく。ある時、かつての若者が家を訪ねてきて、「先生のおかげで今こんな仕事をしているよ」と見せてくれました。ああ、それは君が卒業制作でやろうとしたことじゃないか。そうか、夢が実現したんだね。この時自分の役割が何か一巡したような気がしました。そして自分に残された時間をもっと新たな挑戦に使いたいと思うに至りました。高齢者施

設、まちづくり、薪ストーブ、この10年に取り組んだ仕事はどれも自分にとって新しい挑戦ばかりでしたが、フルコミットして完全燃焼したいという気分です。なので、表紙の作品には2年前に始めたばかりの稚拙なデジタルペインティングを選ばせていただきました。



作品写真 タイトル「赤いコート」
制作年2024年
デジタル出力 キャンバス、羊毛糸、780×580



音楽学部 音楽科
作曲専攻 作曲コース
小林 聡
こばやし あきら

1990年4月に、専任講師として本学に赴任しました。当時は、まだ若く、大学での教育歴もなく、音楽家としても人間としても未熟でした。次第に本学の空気にも慣れ、仕事も少しずつ覚えましたが、気がついたら36年が過ぎていました。楽しい時間は早く過ぎてしまうことを実感します。先生方と職員の皆様に大切にいただき、教育者としても音楽家としても成長し、無事に定年を迎えることができたこと、大変ありがたく思います。お世話になった皆様に心よりお礼申し上げます。思い出は尽きませんが、留学経験のなかった私が在外研究

員としてシベリウス・アカデミーで研究する機会をいただいたこと、拙作を大学オーケストラに初演していただいたこと等、感謝に堪えません。本学の発展と、先生方、職員の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。



1998年のオーケストラ定期演奏会で初演された"Constellation" for Orchestraのスコア(日本作曲家協会より出版)

新任教員紹介



音楽学部 音楽科
声楽専攻
相田 麻純
あいだ ますみ

私は幼い頃から、誰かの役に立つ人間になりたいと考えてきました。獣医として動物を救うという夢を抱きましたが、高校2年生で動物アレルギーを発症し、夢を諦めざるを得なくなりました。しかし音楽に出会い、声楽に出会い、人生は大きく変化しました。今では聴いている人の心に何かを残せるような演奏家を目指して、オペラやコンサートなどに出演しています。愛知県立芸術大学に准教授として着任した今、一緒に前向きに学んでくれる学生たちとの時間はとても充実したものとなっています。これからの時代は「個」の持つ

力が求められると思います。大事な個性を潰さずに、学生の役に立つ教育者であり続けられるよう、自身も日々研鑽を積んでいきたいと思っています。



ドニゼッティ作曲《アンナ・ボレーナ》ジョヴァンナ役
2024年2月 内幸町ホール



教養教育
菅野 類
かんの るい

皆さんこんにちは。令和7年度より本学に着任しました菅野類(かんの るい)と申します。専門は18世紀のイタリア文学で、その時代の悲劇と小説が近代化に向けてどのような表現法を開拓し、どのようなテーマの広がりを模索していたのかを研究しています。書影は当時の悲劇作家ヴィットーリオ・アルフィエーリの2作品の翻訳です。学生の皆さんとは語学や文学史の講義で接しています。語学の授業では「きれいな発音」と「感情表現」を重視して、演劇的な表現力を身につけてもらうことを目指しています。講義系

の授業では、自身の研究で得られた知見を生かしつつ、音楽・美術両領域の学生の知的好奇心を刺激できるようなお話を心掛けています。



『アルフィエーリ 悲劇選
フィリッポ・サウル』
ヴィットーリオ・アルフィエーリ
菅野 類 訳(幻戯書房)



教養教育
石田 智敬
いしだ ともひろ

私は教育方法学を専門とし、教育—教えること／学ぶこと—の営みを「評価」の視点から探究しています。人は意味と価値を生成し、それを規範へと束ね、また更新し続ける。評価は、私たちの行為—意図的であれ無意図的であれ—を導く羅針盤であり、善さの追求を支える原理です。私たちは、その追求を重ねるなかで、生成したものを吟味し、磨き上げ、卓越へと結晶させていく。教育も芸術も、価値づけを核に据えた実践(プラクシス)にほかなりません。私は、この人間的営為の本質を記述し、その含意を教育

において明らかにすることを目指しています。教育を考えることは、いかに生きるかを考えること。私たちの思索は、この「森」から始まります。



『学習評価論における質的判断アプローチの展開
ロイス・サドラー学識の解剖と再構成』
石田 智敬 著(京都大学学術出版会)

GRADUATES' VOICE

まるやま
丸山 のどかさん
博士前期課程
彫刻領域 2017年度修了



1992年、新潟県生まれ。合板や角材などの製材された木材を用いて、言葉や風景を象徴的に切り取り、立体化する作品を制作。現実と虚構が入り混じり、次元の境界が曖昧となる作品を発表している。主な展覧会に「眼差しの手入れ」(京都芸術センター、京都、2024年)、「アートサイト名古屋城2023」(名古屋城二之丸庭園、愛知、2023年)などがある。

制作のまわりにある時間

2012年に入学してから、学部・大学院、そして教育研究指導員として働いた期間を合わせると、気づけば11年間もの時間をこの大学で過ごしてきました。振り返ると、思い出されるのは細かな出来事よりも、広いキャンパスのあちこちにあった一人で静かにいられる場所の数々です。制作の合間に学内を歩き回っていた時間も、今では自身の制作にとって大切な経験だったように思います。

彫刻専攻では、講習会のたびに自分で展示場所を探すことが当たり前のように求められていました。「この作品はどこに置かれるべきか」「この場所で何ができるか」を考える視点が自然と身についたのは、その経験のおかげです。場所に応じて作品の在り方を捉える姿勢は、現在の制作にも深く影響しています。

授業を通して特定の技術を短期間で習得できたとは思っていませんが、素材や技法に興味を持つきっかけを数多く得ることができました。関心を持ったものは自分で調べ、試し、失敗しながら理解を深めていく。そんな時間の積み重ねが、今の自分の活動の糧となっています。また、学生の頃は、大工房の前でチラシを集めては、各地の展覧会を巡っていました。新潟出身の私にとって、関東や関西へも足を運びやすい愛知という土地は、活動の幅を広げてくれる場所でもありました。

卒業後は、作家活動を軸にしながら、教育現場や展覧会設営の現場、芸術と直接関係のない仕事など、様々な仕事に携わってきました。作品の梱包や解体、予算交渉、展示を成立させるための様々な調整など、自身の制作に付随する仕事も含め、「ものを作る」と「働くこと」を切り分けるのではなく、その境界が曖昧になる感覚を肯定的に捉えながら制作を続けています。今でも自分の作品に迷いが生じたときには、大学で出会った先生方や友人たちを思い浮かべ、客観的な視点を取り戻すようにしています。



「遠くからみる、昼休み、みかんのフルーツサンド」2023年 撮影 | 木暮伸也

愛知芸大での原体験

浜松の田舎で高校生活を送っていた私は、理系クラスの3年生になった途端「音大に行きたい」と言い出して周囲を困惑させました。オープンキャンパスで愛知芸大を訪れ、森が開けたとき、不思議と「ここが私のアルマ・マターになる」と直感。夏になってようやく音楽学の存在を知り、一本釣りでも愛知芸大を受験。荒唐無稽な生き方はその後も続きましたが、そんな野放図な自分が自然、恩師、学友、すべてに恵まれました。愛知芸大は私の音楽学者人生の「原形質」を形成する、胎内のような場所。ここを通らなければ、その後の人生は全く違っていただいでしょう。

入学後、コントラバスの渡邊玲雄先生がレッスンをしてくださいました。芸祭オケで演奏したチャイコフスキーの交響曲第4番の記憶はいまも鮮明です。毎週のゼミでは、ロシア音楽の専門家である安原雅之先生をはじめ、一流の研究者が音楽学の可能性を示してくれました。この2つの体験が私をロシア音楽研究へと導きました。

卒業後は東京大学大学院の修士課程に入り、その後博士課程に進学しました。2022-2025年にはロシア政府の国費留学でサント・ペテルブルク音楽院に留学しました。卒論のテーマでもあったソ連出身の作曲家アルフレート・シュニトケの映画音楽について論文を書き、Ph. D. を取得しました。

留学の最終年度がシュニトケの生誕90年にあたり、記念祭がありました。その一環でペテルブルク作曲家同盟に招待され、人生初の公開レクチャーをしました。作曲家や音楽愛好家を前にロシア語で1時間半シュニトケについて話す、夢のようなひとときでした。

愛知芸大に入学した春、立てた目標があります。「音楽学で博士号を取る」、「音楽学で食べていく」。1つは達成しました。もう1つの達成を目指し、頑張ります。



サント・ペテルブルク作曲家同盟で講演の様子(2024年11月17日)

GRADUATES' VOICE

名古屋市立大学非常勤講師
にっ た めくみ
新田 愛さん
音楽学部 音楽科 作曲専攻
音楽学コース 2016年度卒業



音楽学者。専門はソ連ポスト・スターリン期の音楽。2017年、愛知県立芸術大学音楽学部音楽科作曲専攻音楽学コースを首席で卒業。2021年、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース修士課程修了。現在、同博士課程。2025年、サント・ペテルブルク音楽院音楽学学部外国音楽史科大学院課程修了。Ph. D. (芸術学)。受賞に柴田南雄音楽評論賞奨励賞(2016)など。

STUDENTS' VOICE

みはら かなと
三原 奏音さん
音楽学部 音楽科 器楽専攻
管打楽器コース 3年



これまでに第27回びわ湖国際フルートコンクール、第35回日本木管コンクール、第94回日本音楽コンクール 等多数のコンクールにて1位含む入賞を果たす。

3年越しの初挑戦

国内コンクール最高峰である日本音楽コンクールの存在を認識したのはちょうど自分が浪人している時でした。他の同級生たちが挑んでいる姿を見て、同じ土俵に立ってすらいない自分の立場に劣等感を抱いていたのを思い出します。そして愛知芸大に入学して3年が経ち、ようやく挑むことができ5位をいただきました。結果を残せた嬉しさを感じる一方で、まだ上には上がいるという悔しさと、次は海外に視野を広げて挑戦していかなければならないという気持ちが芽生えました。残りの大学生生活は、結果に驕ることなくさらに上を追い求めていきたいです。

不確かさの中で、星を見る

大学に入学する前は油画を専攻していました。そのまま油画を描き続けるつもりでしたが、写真部へ入部し初めてメディア芸術や現代美術に触れて、これだ!と直感して大学ではメディア映像専攻に進学しました。

メディア映像専攻での制作は、誰かと協力しないと成り立たない制作が多いです。一人で黙々と描いていた頃とは違いコミュニケーションが必須で、初めてそれを上手くできていないと気づきました。それをきっかけに人や物との関係性や繋がり不確かさに興味を持つようになり、海外での制作や、コレクティブで人の集まる場を作る活動、家族代行サービスを使って家族について考える作品などを制作してきました。振り返ると、作品は誰かと関わるために作ってきたものだったように思います。

先日、早朝から深夜まで作品展示の設営が続いた日がありました。みんなへトヘトになって帰ろうとしたとき、友人がカバンから大きな望遠鏡を取り出して「今から土星を見よう」と言い出しました。数十分かけて調整してくれたのですが土星は動くのが早く、覗いた瞬間に視界から消えてしまいます。何度もぐるぐる回り、最後は土星のない夜空に向かって「綺麗!見えた!」と言って帰りました。



家族代行サービスを用いた家族写真の作品「2025.06.29の家族」

あのとき、実際には誰も土星を見ていなかったはずなのに、頭の中に思い浮かべたそれぞれの土星に向かって綺麗だと口にしていました。これから星を見るたびに、きっとこの夜を思い出したいと思います。見えないものや不確かなもの誰かと一緒に信じて想像し、そこにあったと思えること。私が作品を通してやりたいのはきっとこれなんだと思います。と言いたところですが、こうと決めてしまうのはなんだか違う気がするので、色々な景色を見て面白かったことを片っ端から挑戦していきたいです。次こそ、本物の土星を見に行こうね。

STUDENTS' VOICE

ふくだ けい
福田 京さん
大学院 音楽研究科
博士前期課程
管・打楽器領域 1年



名古屋芸術大学弦管打コースを首席で卒業。第22回日本フルートコンヴェンションコンクールソロ部門第2位。第94回日本音楽コンクール 第1位併せて岩谷賞(聴衆賞)、加藤賞、吉田賞を受賞。

緊張を越えて、感謝とともに

今回第94回日本音楽コンクールを受けるにあたり乗り越えなければならぬ課題は、演奏前の緊張により現れる、手汗や顔面の紅潮、息苦しさなどの身体の反応でした。どうすれば克服できるのか結局わからないまま本選当日を迎えました。

自分の出番を待っている間様々な気持ちが入り乱れましたが、憧れの舞台上で演奏させていただけることへの感謝の気持ちが一番強いことに気づいた時、いつもの身体の不調は治まっていたのです。

演奏家として音楽を奏でられることに感謝し今後も精進してまいります。

STUDENTS' VOICE

おがわ ゆずほ
小川 柚帆さん
美術学部 デザイン・工芸科
メディア映像専攻 3年



2004年生まれ。人と人との関係性や知覚の再構築をテーマに制作を行っている。インターネットサービスや記録メディアを介した「つながり」はどこに存在するのか、その不確かさに向かう実践を続けている。令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業に採択され、初個展を開催。

News

2025年12月15日 月曜日

※卒業・修了年は年度で記載しています。学年は受賞時のものです。

専攻・コース	氏名	学部・院・出学年度	学年・出学	展覧会・コンクール名	受賞名
鍵盤楽器	武田 桜	博前	2年	第12回東京国際ピアノコンクール	プロフェッショナルの部 第3位
	松村 典香	博前	1年	London Classical Music Competition 2024	Piano Master First Prize(第1位)
				INTERNATIONAL MOZART COMPETITION VIENNA 2024	PIANO/CATEGORY A3 First Prize(第1位)
				The International Competition for Young Pianists “Merci, Maestro!” 2025	CATEGORY F Third Prize(第3位)
				Concorso REGINA Experia COMO	Pianoforte C Primo Premio Assoluto(総合第1位)
	武藤 寧音	博前	1年	第3回JPTA新人ピアノコンクール	第3位
	開坂 望生	2022	卒業	第27回日本演奏家コンクール	ピアノ部門 一般Aの部 第3位
				第4回ショパンランドコンクール 本選	高校〜一般B部門 最優秀賞
				第58回カワイピアノコンクール全国大会	ソロ部門Sコース 金賞
	原川 真奈	2023	卒業	第35回日本クラシック音楽コンクール全国大会	ピアノ部門 一般女子の部 第5位
吉岡 瑞貴	2023	卒業	Concorso REGINA Experia COMO	Pianoforte C部門 Primo Premio(第1位)	
岡本 先華	学部	4年	第21回東海音楽フェスティバル	ピアノF部門(大学生) 銀賞	
ピアノ	桑山 拓士	学部	3年	第49回ピティナ・ピアノコンペティション 全国大会	G級 ベスト賞
				第26回大阪国際音楽コンクール	ピアノ部門Age-G(一般) 第1位、文部科学大臣賞、その他5賞
				第21回東海音楽フェスティバル	ピアノF部門(大学生) 金賞
				第11回なごや青少年ピアノコンクール	総合第1位 愛知県知事賞 プロフェッショナル部門 第1位
	安田 絢光	学部	3年	第4回ドビュッシー国際ピアノコンクール	G部門 第3位
				第4回ドビュッシー国際ピアノコンクール	オンラインG部門 第1位、ドビュッシー賞
	中村 美結	学部	3年	第28回長江杯国際音楽コンクール	ピアノ部門 大学の部 第2位
				SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2025	ピアノ部門 大学生の部 第3位
	渡邊 美音	学部	3年	2025第32回国際コンクールin知多	F部門 金賞
	弦楽器	本村 玲菜	学部	2年	第30回みえ音楽コンクール
第30回みえ音楽コンクール					ピアノ部門 大学生以上一般の部 第1位、岡田文化財団賞
第12回あおによし音楽コンクール奈良					ピアノ部門 アーティストコース 優秀アーティスト賞
山田 愛奈		学部	2年	第11回なごや青少年ピアノコンクール	プロフェッショナルステージ ピانو部門 第2位
				第11回なごや青少年ピアノコンクール	大学・大学院生部門 第2位
小島 梨奈		学部	1年	第36回尾東音楽コンクール	大学・大学院生部門 第2位
加藤 志麻		2014	卒業	第26回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 大学生部門 オンライン決勝大会	銀賞
中村 真帆		2016	卒業	ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクールin Tokyo 2025	ピアノソロ部門 YouTubeビデオスタイル 特別賞
白井 英俊		2020	修了	第49回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	ピアノ1年生の部 第3位
管打楽器		加藤 志麻	2014	卒業	第35回松尾音楽助成
	中村 真帆	2016	卒業	第35回松尾音楽助成	受賞
	白井 英俊	2020	修了	第35回松尾音楽助成	受賞
	篠原 智香	博前	2年	INTERNATIONALER KÖNIGIN SOPHIE CHARLOTTE WETTBEWERB FÜR VIOLINE 2025	2. Preis(第2位)、SCHLOSS MIROW MEDAILLE(クラシック作品最優秀解釈賞)
				Arosa Music Academy II	Violine, Viola und Violoncello Hans Schaeuble Anerkennung 2025 (ハンス・シャウエブル認定書 2025)
				Brigitte-Kempen-Wettbewerb 2026	Violine solo 2. Preis(第2位)
				第12回あおによし音楽コンクール奈良	アンサンブル部門 最優秀賞
	有田 琴奏	博前	1年	第12回あおによし音楽コンクール奈良	アンサンブル部門 最優秀賞
	久保田 琴子	博前	1年	第35回日本クラシック音楽コンクール全国大会	ヴァイオリン部門 大学の部 第4位
	十河 和奏	博前	1年	第28回長江杯国際音楽コンクール	一般の部A 第1位、中国駐大阪総領事賞
第12回あおによし音楽コンクール奈良				アンサンブル部門 最優秀賞	
西澤 恵都	博前	1年	第35回日本クラシック音楽コンクール全国大会	ヴァイオリン部門 大学の部 第5位	
梅田 幸史朗	学部	4年	第12回あおによし音楽コンクール奈良	アンサンブル部門 最優秀賞	
伊藤 翔也	学部	2年	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ(広島)	オーディション 合格	
蔵野 聖	学部	1年	第35回日本クラシック音楽コンクール全国大会	コントラバス部門 大学の部 第3位	
勝 諒平	2023	修了	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ(名古屋)	合格	
狩野 将輝	博後	1年	第22回イタリア国際打楽器コンクール	マルチパーカッション部門 CategoryC 第1位	
管打楽器	福田 京	博前	1年	第22回日本フルートコンヴェンションコンクール	ソロ部門 2位
				第94回日本音楽コンクール	フルート部門本選 第1位、岩谷賞(聴衆賞)
	富田 祐衣	学部	4年	第9回名古屋トロンボーンコンペティション	アンサンブル部門 第1位
				第9回名古屋トロンボーンコンペティション	一般ソロ部門 第2位
	難波 倫広	学部	4年	第9回名古屋トロンボーンコンペティション	一般ソロ部門 第3位
	塩原 翔	学部	3年	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ(名古屋)	合格
	三原 奏音	学部	3年	第94回日本音楽コンクール	フルート部門本選 第5位
	武藤 りさ	学部	3年	第16回関西トランペット協会コンクール	課題曲部門 入選
	酒井 靖河	学部	2年	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ(名古屋)	合格
	梅村 大地	学部	1年	第14回ヤング・クラリネットティストコンクール	ヤングアーティスト部門 第2位

15 News

News

在學生・卒業生・修了生の昨年の主なニュース
【期間:2025年1月〜2025年12月まで】

専攻・コース	氏名	学部・院・出学年度	学年・出学	展覧会・コンクール名	受賞名
油画・版画	村瀬 ひより	博前	2年	ファン・デ・ナゴヤ美術展2026	選出
	近藤 寛喜	博前	1年	Idemitsu Art Award 2025	鈴木俊晴審査員賞
				第50回記念全国大学版画展	優秀賞
	土屋 朱織	博前	1年	第4回公募展古川美術館Fアワード	CBCテレビ賞
	西田 咲貴	博前	1年	ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2025	審査員木村絵理子賞
				CAF賞2025	野路千晶審査員賞
油画	小塚 由羽希	学部	3年	TURNER AWARD 2025	大賞
				第50回記念全国大学版画展	町田市立国際版画美術館賞
				合田 珠未令	2020
デザイン	鈴木 琢夢	2024	修了	2025年度グッドデザイン・ニュー・ホープ賞	入選
	大西 真央	博前	2年	第2回浮き紙デザインエキシビジョン	最優秀賞、津田賞
	佐藤 花	学部	4年	日本タイポグラフィ年鑑2024	入選
	志賀 佳奈子	学部	3年	ニッポンものづくりデザインアワード2024	企業賞
	牛島 理佐	学部	2年	ニッポンものづくりデザインアワード2024	奨励賞
				2025年度グッドデザイン・ニュー・ホープ賞	入選
陶磁	吉田 風音	博前	2年	工芸都市高岡クラフトコンペティション	2025年陶磁器部門 入選
				第121回有田国際陶磁展	陶都有田国際交流協会賞
	佐藤 颯真	学部	4年	第39回四日市萬古陶磁器コンペ2025	グランプリ
第56回東海伝統工芸展				東海伝統奨励賞	
メディア映像	小川 柚帆	学部	3年	令和7年度 文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム	採択

美術

専攻・コース	氏名	学部・院・出学年度	学年・出学	展覧会・コンクール名	受賞名
作曲	倉地 佑奈	2024	修了	COLIBRI Arts and Music 1st International Music Composition Competition	Category B - Chamber Music 1st Prize(第1位)
	浦野 真珠	博前	1年	35° Concorso Internazionale per Giovani Musicisti ‘Città di Barletta’	COMPOSIZIONE CAT.B Primo Premio(第1位)
				第42回現音作曲新人賞本選会	新人賞、松平頼暢作曲賞、聴衆賞
	渡部 瑞基	博前	1年	第11回北海道の作曲家展	一般公募入選
				Ensemble Tonesseek 第4回演奏会	作品公募採択
	サントリーサマーフェスティバル2025 ジョルジュ・アベルギスによる作曲ワークショップ作品公募	採択			

声楽	山本 高栄	2006	卒業	第92回NHK全国学校音楽コンクール全国コンクール	中学校の部 金賞
	川越 未晴	2017	修了	第78回全日本合唱コンクール全国大会	中学生部門混声合唱 金賞、文部科学大臣賞
				第94回日本音楽コンクール	声楽部門本選 第3位
	小坂 千尋	2023	修了	ひろしまオペラルネッサンス・アンサンブルシアターⅣ セヴァリアの理髪師 キャストオーディション	ベルタ役 オーディション合格
	居島 優海	2023	卒業	第79回全日本学生音楽コンクール 名古屋大会	声楽部門 大学の部 第3位
	岡崎 奏樹	博前	2年	第79回全日本学生音楽コンクール 名古屋大会	声楽部門 大学の部 第2位
	谷口 奈々恵	博前	2年	第79回全日本学生音楽コンクール 全国大会	声楽部門 大学の部 入選
				第79回全日本学生音楽コンクール 名古屋大会	声楽部門 大学の部 第1位
	澤井 佑介	博前	2年	The VIII LISZT FERENC INTERNATIONAL COMPETITION(ハンガリー・ブタベスト)	Vocal Category 1st Prize
	篠原 夕佳	博前	2年	第79回全日本学生音楽コンクール 全国大会	声楽部門 大学の部 入選
第79回全日本学生音楽コンクール 名古屋大会				声楽部門 大学の部 第1位	
畑 こはる	博前	1年	第27回日本演奏家コンクール	一般Aの部 特別賞	
小山田 佳乃子	学部	3年	第5回国際声楽コンクール東京 本選	声楽大学生部門 第3位	
鍵盤楽器	杉山 和香葉	学部	3年	Prof. Dichler-Competition 2025(オーストリア・ウィーン)	第3位
				第3回プリマヴェーラ声楽コンコロソ	カテゴリーA・カント・クラッシコ ヴェンティ部門 入選(第6位)
	瀬織 羅紗	学部	3年	2025豊田声楽コンクール	大学・一般A部門 金賞
				第49回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	声楽部門大学生の部 第1位
	渡邊 玲華	学部	3年	第5回国際声楽コンクール東京	声楽大学生部門 入選(第10位)
				第4回国際声楽コンクール東京	声楽大学生部門 第5位、ドレミ楽譜出版社賞
石田 彌月	学部	2年	第7回日本奏楽コンクール	声楽部門大学の部 第3位	
久保 光暖	学部	1年	第79回全日本学生音楽コンクール 北九州大会 本選	声楽部門大学の部 第3位	
仙洞田 桃果	学部	1年	第5回国際声楽コンクール東京	声楽大学生部門 入選(第9位)	
鈴木 美穂	2018	修了	第3回プリマヴェーラ声楽コンコロソ	カテゴリーA・カント・クラッシコ ディオット部門 入選(第8位)	
武田 桜	博前	2年	2025年度公益財団法人大田区文化振興協会フレンドシップ・アーティストオーディション	合格	
			第7回あいの土山ピアノコンクール	大学生・一般部門 第1位	

愛芸アシスト基金 寄附制度について

みなさまからの寄附が愛知芸大を支えます。

愛芸アシスト基金の目的は、愛知県立芸術大学が地域における芸術文化創造活動の拠点として多くの方々に親しまれ、理解を深めていただくとともに、学生や教員の意欲的で創意あふれる活動を推進することです。本学は2026年度に、創立60周年という節目を迎えます。記念事業として特別バージョンの演奏会や展覧会等を開催いたします。皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄附金はさまざまな事業に活用させていただきます。

■ 本学主催の演奏会、展覧会への支援

■ 本学の実施する地域文化の振興、国際交流、学生支援事業等に関する支援

[個人] 1口 1万円 [法人] 1口 10万円

※何口でもお申込みいただけます。※税制の優遇措置が受けられます。

寄附者特典

寄附金をいただいた方には、下記の特典がございます。

- ・大学発行の情報誌（学報等）をお届けします。
- ・大学主催の演奏会・展覧会にご招待いたします。

※ご招待公演、参加人数は当方より指定させていただきます。

お申し込み方法

- ・金融機関窓口からの振込
- ・クレジットカード決済

ウェブページからお申し込みください。▶

<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/guide/summary/14.html>



60周年記念特典

寄附者のご芳名を寄附者銘版及び本学ウェブサイトに掲載

期間中（2025年12月1日～2027年3月1日）同一年度内のご寄附が合計10万円以上の個人、30万円以上の法人の皆様

愛芸アシスト基金への寄附者一覧

※一定額以上ご寄附頂いた方のご芳名を掲載しました。（五十音順 2025年12月末日現在）

[法人]

一般社団法人日本能率協会 様
NPO法人イエロー・エンジェル 様
岡谷鋼機株式会社 様
株式会社スズケン 様

株式会社植屋 様
太平洋工業株式会社 様
武田機工株式会社 様
中部日本放送株式会社 様

東邦ガス株式会社 様
豊田信用金庫 様
愛知県立芸術大学音楽学部同窓会 様
愛知県立芸術大学美術学部同窓会 様

[個人]

荒居 秀雄 様
伊藤 寿美子 様
岩佐 泰樹 様
太田 美香 様

小林 章嗣 様
澤田 昌典 様
清水 哲太 様
末吉 利行 様

出村 祥雄 様
戸山 俊樹 様
廣田 誠克 様
福島 佐千男 様

細川 淳 様
松村 公嗣 様
吉田 英之 様

愛芸アシスト基金



表紙作品「箱根」

水津 功 美術学部 デザイン・工芸科 デザイン専攻 教授
制作年2024年 デジタルデータ

裏表紙作品「夜明けを待つ男」

水津 功
制作年2024年 デジタル出力 キャンバス、羊毛糸、780×580

60周年記念事業

ウェブサイトはこちら ▶

https://www.aichi-fam-u.ac.jp/anniversary_60/



愛知県立芸術大学

